

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1194600365		
法人名	株式会社ワイグットケア		
事業所名	グループホーム五感の里 深谷		
所在地	〒366-0817 埼玉県深谷市柏合601-1		
自己評価作成日	令和4年12月29日	評価結果市町村受理日	令和5年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は深谷市で1番高い山「仙元山」の南側に位置し、秩父連峰を眼前に田園が広がり自然豊かな環境の中、入居者様と職員が地域の皆様とふれ合いながら、地域の中の生活者として過ごしています。少人数を一つのユニットとして家庭的な雰囲気の中、それまでのライフスタイルや価値観を大切に可能な限り自立した日常生活を送る事ができるよう、一人ひとりの状況を把握し、個別性の高いケアを目指しています。医療面では提携先医療機関と密な連携(24時間オンコール体制)又、近年では施設での看取りを希望する、家族様の要望もことから、事前に家族様が推定(本人確認が困難な場合)する本人の意思を尊重し家族様や入居者様にとって心穏やかに最後の時間が過ごせるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・利用者の生活のペースが尊重され、利用者のための介護の視点で、穏やかに過ごしてもらえようとする努力をされているため、家族から「本人が過ごしやすいように日々工夫や努力をしてくれる」、「ひとり一人に適した対応をしてくれる」、「家族の意向をちゃんと聞いてくれる」、等の言葉をいただいている。  
 ・運営推進会議は、多方面の参加を得て定期的開催され、地域と介護に関する情報が運営に活かされてきたが、コロナウイルス禍のため、利用者職員のみで開催し、議事録を運営推進会議のメンバーに送付することで、代替えとされている。  
 ・目標達成計画の達成状況についても、身体拘束をしないケアの実践として、身体拘束防止委員会が年4回開催されており、家族や主治医にも理解を得て取り組んでいることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	職員採用時に理念に基づいたケアが実践できるよう丁寧に解りやすく、説いている。又、始業時、職員全員で唱和している。日頃のケアのなかで理念に基づいたサービスが行われているか職員間で話し合いケアの統一が図れるよう取り組んでいる理念は職員の目のつく場所に掲示している。	『住み慣れた地域で尊厳のある支援を行う』ために地域社会にとけこめる事業所づくりが意識的におこなわれている。また、日々の生活の場面での関わりが重視され、地域との交流も含めて家庭的であることにも留意されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設は点在する田畑の中に位置しており、入居者との散歩時は近隣住民が声を掛、挨拶を交わし、時には野菜等を頂く事もある。又、自治会に加入しており、地域の一員として積極的に関わりが持てるよう心掛けている。	地域住民からの理解が得やすい関係づくりに努力されているため、コロナ禍であっても散歩の際にあいさつを交わすこと、野菜等の差し入れをいただくこと等で地域との繋がりを継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、令和2年度・令和3年度は、職場体験や施設見学の受け入れが出来てない状況だが要望があればその都度、書面やLINE又は電話等にて対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に入居者の活動状況や事故報告書等を記載した「活動報告書」を各委員に配布しFAX等で意見や要望を聞いている(現在はコロナ感染対策予防の為、書面での開催になっている)開催後は報告書を行政に提出している。	新型コロナウイルス感染予防のため書面開催され、規定にそった年6回の開催が守られており、定期的に参加者からの意見を取り入れられる環境がつけられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは運営推進会議や更新手続きその他の相談窓口を訪問した際情報交換を行っている。又「権利擁護」等の研修案内や実施指導、認知症推進委員会との連携も取れている。	日頃から連絡をとり、地域の情報や市の取り組みなどを教えてもらっている。また、不足する衛生用品の支給やワクチン接種の状況を相談するなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアのなかで身体拘束にあたらないか、職員間で話し合い、入居者の行動抑制をせず自由な暮らしができるよう取り組んでいる。玄関やテラスからはいつでも外に出る事ができ、入居者が太陽の下洗濯物を干している。身体拘束委員会を年4回開催している。	身体拘束廃止委員会が開かれ、研修やカンファレンスも含めた話し合いが行われており、身体拘束をしないケアの意識は職員に正しく理解されている。利用者目線で日々のケアを振り返り、検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は内、外部研修の受講や定期的研修で虐待や権利擁護に関する制度等を学んでいる。又日頃の声掛けやケアのなかで不適切な対応をしていないか等話し合い、事業所での虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度については、事業所内で勉強会を行い、必要に応じて説明ができるように資料も準備している。現在1名の利用者が成年後見人制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、本人や家族に契約書や重要事項説明書を用いてサービス内容を説明している。説明の中で不安や疑問がないかを聞きし、納得頂いて契約を締結している。介護報酬や制度改正時はその都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の要望や意見等は日常の会話や支援の中から聞ける工夫をしている。家族からは電話やライン、面会時に直接聞いている。職員も家族の要望に出来るだけ応じるべく努力している。	毎月の近況報告や行事の際の様子が家族に送付されているため、面会制限中であっても様子を感ずることができることから家族の安心感に繋がっている。そのため具体的な支援方法や事業所の対応に対する意見も多く得られ、実践に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案、不満が言いやすい環境作り、聴く姿勢に務めるようにしている。意見や提案などミーティングやその都度スタッフとの個別面談を通して、職員の希望や提案などが運営に反映できるようにしている。	代表者や管理者との隔たりがなく、日頃から細やかなコミュニケーションが図られているため家族からも「雰囲気が良い」との評価をいただいている。ミーティングの場でも自由な意見交換がなされており、積極的に職員からの提案が取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の意見、提案、職場環境の把握に努めている。代表者に施設状況を報告し、改善が必要な時は伝え取り組んで頂いている。職員のスキルアップの為に資格習得支援も行っている又悩み相談の電話ヘルプラインも整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は社内研修や外部委託のオンライン講習に参加する機会を得る事により、職員の介護知識とケアの質の向上に努めている。又毎月様々な課題を取り上げ、職員自らが考え実践に繋げていけるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年も多職種情報共有はコロナ禍の為、あまり実施できていないが看取りケア実施時は、訪問診療や訪問看護と連携により、サービスの質の向上につながっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学を提案し施設の雰囲気を感じて頂けるようにしている。家族や本人とゆっくり話し、時には現在入居中の人からの話を交えて、不安事や要望等を受け止め安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を実施し現在直面している問題等を傾聴し、要望等を受け止めるようにしている。又、家族が心にある辛さや、後悔等を感じ気軽に話せる機会をつくる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のアセスメントを行い、家族の要望を踏まえ適切なサービス支援を提供出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの能力に応じて、掃除や洗濯干し・衣類たたみ、食事の下ごしらえ、食器洗い、これまで行ってきた家事を、職員と一緒に実践することで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や手紙等でホームでの普段の様子を伝え、ご家族と情報を共有するよう努めている。ご家族で出来る事はお願いして関わりが希薄にならないよう常に連絡を取り合う工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、地域のイベント参加等は自粛し、家族面会は窓越しやベランダからの会話などの支援が行われている。現在は感染対策に配慮し、家族と専用の面会室での面会が出るように取り組んでいる。	コロナ禍での感染予防のため、面会方法の制限があるが、書面や写真、電話、オンライン面会での交流を工夫されている。また、知人に合わせたいとの希望にも対応され要望に対しての配慮がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりに個性があり、時々衝突することもあるが、職員が仲を取り持ち、良好な関係が築けるよう努めている。一緒に食器を洗ったり、調理の下ごしらえや洗濯物をたたんだり、関わり合い支え合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の他施設への転居、退居後も家族からの相談、要望があれば応対できる窓口となれるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の会話の中で得た情報を記録に残し共有している。モニタリングや担当者会議にて本人、家族の意向や気持ちを聴きケアプランに活かしている。	一人ひとりの日ごとの様子を観察することで思いを引き出す配慮がされている。昔の思い出の話題から思いを引き出す工夫をしたことなどからも本人本位の支援がおこなわれていることが伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の面会時や関係各所から聞き取りを行う等してこれまでの、生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し記録に残し必要時にはカンファレンスを実施している。自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやケース会議等で日々の状態を伝え家族様の意向や本人の要望等を取り入れ、意見を参考にケアプランを作成している。	利用者、家族、かかりつけ医、看護師、介護職員等から総合的に把握された情報をもとに定期的に話し合いの場が設けられている。カンファレンスでは利用者ごとの対応が検討され、介護方法の工夫が話し合われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙にプラン実施状況をチェックできる項目を作り、日々の記録からも問題点や様子を共有でき見直しが行いやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いや運転、必要品の購入、訪問歯科、訪問理美容等の要望にも対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議や災害時の相互援助協定など地域の方々とともに連絡をとり、事故予防などに支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望を優先し、かかりつけ医と施設提携医による受診体制が整っている。かかりつけ医対応は原則家族であるが、職員によるカバー体制もある。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をさせていただいている。医療に関する情報の共有や主治医との連携に力が入れられており、適切な医療を受けられるようなサポート体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中で体調の変化に気づき、施設看護師との情報を共有にて、指示助言を受け適切な看護が受けられるように支援している。又、急変時には24時間対応で看護師を通じて提携先病院と連絡をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から入居者の状態把握に努め入院時には必要な情報が速やかに提供できる体制づくりを心掛けている。退院時には看護サマリーを依頼し、退院後の生活に支障が生じないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化や終末期に向けたホームの方針を必ず伝え、同意を得ている。施設での看取りについて指針を元に十分な説明を行い家族の意向を反映させるべく取り組んでいる。終末期に於ける職員が可能な対応について理解を深め職員の不安軽減にもつなげている。	家族や主治医との意見交換や情報の共有により、可能な場合には看取りの支援に取り組まれている。グループホームだからこそできる看取りケアに取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故にたいするマニュアルを作成し医療機関への迅速な連携を実施している職員が講習会に参加して救命救急についての知識を身につけると同時に定期的な訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の協力を得て様々な状況を想定して通報訓練、防災訓練を実施している。定期的に業者による消防設備点検を実施している。防災時の飲水、食料も3日分備蓄している。	感染予防のため、地域住民の方々の訓練参加は中止されているが、避難訓練、防災設備点検、備蓄の点検やマニュアルの確認など日ごろの対策は継続されている。	コトワでの災害は特に予測不可能なことで職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、定期的な避難訓練の実施とともに状況にあわせた工夫を検討していくことが期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護においては入居者(家族)に説明書面にて理解を得ている。写真利用等は許可を得た写真のみに留めている。言葉遣いに対しては親しみやすさと礼儀をわきまえた上で敬意をもって接している又新人職員に対しても徹底する事でケアの充実を図っている。	日々のケアの中での配慮や注意点に関しては勉強会やミーティングの場で話し合いが行なわれ、尊厳を傷つけない対応方法が確認されており、職員全体での共通理解に繋がっている。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に関しては、継続した研修体制が必要です。職員同士が意識的に日々の対応を振り返り、検討できる体制づくりの継続が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が伝えやすいように、日頃より対話を多くして、気軽に気持ちを表現したり、自己決定の機会を多くもてるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	以前の生活や施設での生活パターンを考慮してその人らしい生活ができるよう最大限努力している。集団生活では本人の意向に添えない場面も多々あるが出来る限り希望に添えるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞いて訪問理美容を定期的を実施している。自ら服装の選択が出来ない入居者に対しては季節に合った服装でその人らしい装いを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、入居者が職員と一緒に、調理を行っている。野菜の皮むき、盛り付け、食器洗い等などは一人ひとりが役割を持って主体的に行っている。若い職員は入居者から学ぶ事も多々あり、お互いが良い刺激になっている。禁食や嫌食の代替品も用意している。	家庭的な食事の風景が意識され、好みや希望が把握されている。思い出の料理、隠し味の工夫等を聞き取り一緒に調理される機会がつけられている。また家庭菜園の野菜を収穫して料理する楽しみも継続して支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者がいつでも好きな飲み物が飲めるよう多種用意している。栄養バランスの取れた食事を摂取してもらい、毎日食事と水分の摂取量を記録して一人ひとりの状態が確認できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。入居者一人ひとりの力量に応じて、声かけのみの方もいれば、歯ブラシをセッティングして手渡ししたり、仕上げ磨きで介助をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は入居者の状況や睡眠状態に合わせてパットやPTイレ等を利用している。排泄の自立に向け、立位保持に繋がる歩行訓練や骨盤底筋体操等を取り入れ、機能維持に努めている。	利用者の希望と能力が把握され、トイレでの排泄にむけて個別のケースごとに話し合いが行われている。自立支援を基本として目標が立てられ、時間がかかっても利用者のペースに合わせて支援できるように取り組まれ、失禁を予防するための骨盤底筋体操も取り入れられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状態(回数等)を確認排泄パターンを掴みタイミングを逃がさないよう心掛けている。又、運動や乳製品提供で自然排便ができるよう支援している。改善困難時は医師の指示を仰ぎ薬剤によるコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回を目標としているが個々の身体状態、本人希望に合わせて柔軟に対応している。入居者によっては同性介助を基本としている。着脱衣や洗身等は本人の出来る事/出来てくる事に着目してやって頂くよう工夫している。	利用者それぞれにあった入浴の方法や注意点は職員間で話し合わせ共有されている。気持ち良く入浴できるように環境が整えられ、リフト浴を設置する改修も行われた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿った臥床時間での支援を行っている。安眠に繋げるために日中の活動量を増やすように工夫している。慢性的に不眠の入居者に対しては、家族や医師と相談して眠剤等に対応し良質な睡眠が確保出来るように支援している。(副作用にも充分配慮している)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個人ファイル内にある処方薬説明書を熟読し、薬内容を把握している。処方内容に変更があった場合は看護師より指示があり、職員間で情報を共有し服薬後状態を観察して記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で活用できる機会を作っている。入居者にはそれぞれ役割があり、張り合いが持てるよう工夫している。又、本人の嗜好に合わせて余暇時間を自由に過ごせるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出がままならない状況だが、1日に1回は表に出て、近隣散歩、玄関先での外気浴花壇への水やり等を行っている。又、テレビ番組等で仮想旅を楽しんで頂いている。	感染予防のため、密を避け、散歩や外気浴を楽しまれている。また、菜園で季節ごとの野菜の生育を観察することで季節を感じてもらったりできる工夫がされている。	



## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者は、お金を管理する事は困難だが、中にはお金を所持することで満足する入居者もあり、家族と相談して少額を所持してもらっている。買物では金を渡して支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的到手紙をやりとりしている入居者様には本人の要望に添って手紙セットを用意して、いつでも自由に書けるよう支援している。電話利用に関しては家族様の了解を得てお話ができるよう工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には数台のテーブルとソファを設置し入居者がそれぞれの場所で過ごせるよう工夫している。体操やボール遊び、カラオケ、談笑したり横になったり、くつろいで過ごしている。又、壁には入居者の作品や写真等が飾られている。	感染予防のための消毒も含め、清潔な環境で気持ち良く過ごせるように掃除や整理整頓に力が入れられている。また、四季の変化を感じられるような飾りつけが工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファ設置され、入居者は一人でくつろいだり、複数でおしゃべりを楽しんだり、寝転がったり、テーブル席でテレビやカラオケを楽しんだり、各々過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベット、エアコン、クローゼット等が配置され、入居者はテレビ、仏壇、衣類、使い慣れた寝具等を持ち込んで居心地良く暮らしている。入居者の心身の状況によって家族と相談しながら、居室換えを行う事もある。	それぞれの利用者の生活スタイルやこだわりを尊重し、本人が過ごしやすいことが最重要視されている。思い出の写真や人形を飾ること、仏壇を持ち込むこと等、その人らしい居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手摺が設置され、動線を確保して整理整頓を心掛けている。車椅子の入居者も安心して移動ができる。又、居室は解りやすいよう表札や写真が掲示されている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム五感の里深谷

## 目標達成計画

作成日: 令和 5年 3月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	職場で知り得た個人情報の漏洩について。 入居者様への不適切な言葉遣い、言葉選び、 発言内容について。	職場で知り得たプライバシー保護。 各入居者様への尊厳を意識した言葉遣い、 言葉選び、発言。	入居者様一人一人の人格を尊重し、各ユニットで 日頃のケアの振り返りを行う。 個人情報保護の資料をもとに各自学習する。	6ヶ月
2	35	災害対策のマニュアルが古い。 災害時の備蓄品が全て揃っていない。	新しい災害対策マニュアルの配布。 災害時備蓄品の確保(食糧3日分)	災害対策マニュアルの作成。 必要な備蓄品の確保、食料品の確保。使用期限、 消費期限を確認し準備していく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。